

# エヌビディア(NVDA)

大幅な増収増益も足元では一時的な成長鈍化が予想される。製造業における AI 実装強化策が期待される。

ナスダック | 半導体素子 | 業績フォロー

BLOOMBERG NVDA US | REUTERS NVDA.OQ

**直近業績**：2月22日発表の2024年事業年度通期業績(1月)は、売上高が前年比126%増の609億USD、当期純利益が同580%増の297億USDとなった。4Q(11-1月)では前年同期比260%増の221億USD、純利益は同769%増の122億USDとなる大幅な増収増益となった。粗利率や営業率といった利益率面でも200pts以上の改善が対前年比で観測されている。一方で2025年決算期の1Q(2-4月)ガイダンスでは前年同期比で横這となる売上高240億USD、粗利率が76.3-77%程度となる現水準からの1桁%程度の改善を見込んでいる。

**事業概況**：今年の3月18日から21日(米国時間)にて開催されたGTCカンファレンスでは、AIとNVIDIA製GPUおよびCUDAプラットフォームについての技術進歩について明るい見通しが示された。主に、クラウド環境AIにおいてGPUやCPU、DPU(データプロセッシングユニット)などを連携する技術や、エッジコンピューティング環境との連携技術などの優位性が説かれた。現在のNVIDIAのエコシステムにおいて、3,300ものAI実装アプリケーションがNVIDIA製GPUにおいて稼働、1,600社ものAI関連企業がNVIDIAのCUDAを用いた開発環境において開発を行っている。

**投資論点・リスク**：現在のこうしたプロセッサ間や通信環境における高速化技術は2020年から2021年にかけて行われたMellanox Technology社の買収によって獲得したIP・技術資産によってもたらされている。同社の買収において発生したのれんは34億USDとなり、現在のバランスシート上ののれんの80%を占めている(対総資産では7%)。NVIDIAは技術優位性を確保するために、こうした買収先を今後も獲得していく必要があるだろう。

4月24日、AI実装におけるGPU環境の配備・管理を行う技術を開発するRun:ai社の買収決定を発表した。同社の技術は複雑なクラウドおよびエッジ環境での統合的なアプリケーション管理を可能にしており、NVIDIAが力を入れている製造業におけるOmniverseなどのプラットフォームを補強することが期待される。

四半期業績 (1月期)	1Q24	2Q24	3Q24	4Q24	1Q25(F)
売上高(百万USD)	7,192	13,507	18,120	22,103	24,209
当期利益(百万USD)	2,043	6,188	9,243	12,285	9,869
希薄化後EPS(USD)	0.82	2.48	3.71	4.93	3.32
四半期配当(USD)	0.04	0.04	0.08	0.04	0.04

通期実績 (1月期)	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025 (F)
売上高(百万USD)	16,675	26,914	26,974	60,922	112,004
売上総利益(百万USD)	10,396	17,475	15,356	44,301	84,742
粗利率(%)	62.34	64.93	56.93	72.72	75.66
営業利益(百万USD)	4,532	10,041	4,224	32,972	72,276
営業利益率(%)	27.18	37.31	15.66	54.12	64.53
当期利益(百万USD)	4,332	9,752	4,368	29,760	58,218
希薄化後EPS(USD)	1.73	3.85	1.74	11.93	23.54

引用：企業公表値、ブルームバーグ(Fはブルームバーグ予想値)

TEL : +81 3 3666 0707 (直通)

E-mail : tomoyuki.misumi@phillip.co.jp

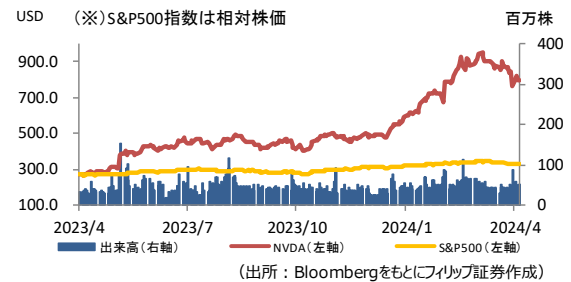
予想配当(USD)	0.17
株価(USD)	439.66
実績PER(倍)	102.34
予想PER(倍)	41.34
時価総額(10億USD)	1,086
企業価値(10億USD)	1,081
3ヵ月平均売買代金(百万USD)	22,085

\*配当予想と予想PERはブルームバーグ、各数値は4/25日終値による

### 会社概要

1993年設立の半導体ベンダー。画像処理目的の半導体チップであるGPU(Graphic Processing Unit)が主力製品。GPUの汎用目的化ツール・開発環境となるソフトウェアCUDAを提供。人工知能(AI)やハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)用半導体製品において独占的な地位を築く。現CEOは創業者であるジェンソン・ファン氏。

### 株価推移



FY24 製品別売上(百万USD)	YoY	3yr CAGR	
データセンター	47,525	217%	100%
ゲーミング	10,447	15%	17%
プロ向け画像処理	1,553	1%	6%
車載向け	1,091	21%	12%
OEM その他	306	-33%	-12%

引用：企業公表値

FY24 地域別売上構成(百万USD)	3yr CAGR	
中国	17%	149%
米国	44%	25%
台湾	22%	20%
その他	17%	22%

引用：企業公表値(\*中国地域は香港を含みます)

セグメント別売上/営利(百万USD)	FY23	FY24
コンピューター&ネットワーク(売上)	15,068	47,405
コンピューター&ネットワーク(営利)	5,083	32,016
セグメント営業率(%)	34%	68%
グラフィックス(売上)	11,906	13,517
グラフィックス(営利)	4,552	5,846
セグメント営業率(%)	38%	43%
セグメントに分類されない営業費用計	▲5,411	▲4,890

引用：企業プレスリリース

利益還元推移	FY22	FY23	FY24
自社株買い総額(百万USD)	7,080	10,040	9,700
DPS(USD)	0.16	0.16	0.16
配当利回り(%)	0.07	0.08	0.03

引用：企業公表値、ブルームバーグ

\*配当利回りは決算発表日の価格に基づく

**【レポートにおける免責・注意事項】**

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部 三角 友幸

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。